

造形における素材と多様な表現方法に関する一考察

－絵による表現・工作による表現での実践を通して－

高田 さとこ

A Study of Material and Various Expression Skills in Formative Art
－ Through Practice of Painting Expression and Creative Expression －

Satoko Takada

幼児の造形表現における素材と多様な表現方法は、幼児が日常を過ごす自然環境に目を向け、身近な環境の中から造形作品に発展する素材を探し、造形のアイデアを保育に取り入れる工夫をすることが肝要である。幼児とは、満1歳から小学校に就学するまでの子どもであり、幼児の描画と造形表現を学ぶ学生にとっては、新しい表現方法を探求する必要がある。幼児の柔軟な感性は、造形活動において多くの可能性を発揮でき、身近な紙に絵を描いたり、紙を丸めて何かに見立てたりする遊びの中からも、様々な表現方法を引き出すことができると考えられる。

本稿は、様々な技法や豊かな表現力を身に付ける授業における「絵」と「工作」の授業実践が、どのように学生の「感性と表現」を育み、素材の選定と多様な表現方法の技術の修得につながるかを考察したものである。

Key Words: [素材] [表現方法] [豊かな感性] [描く] [作る]

(Received September 11, 2017)

I. はじめに

幼稚園教育要領第2章「ねらい及び内容」には、この章に示すねらいは、幼稚園教育において育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えたものであり、内容は、ねらいを達成するために指導する事項である。各領域は、これらを幼児の発達 の側面から、心身の健康に関する領域「健康」、人との関わりに関する領域「人間関係」、身近な環境との関わりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」としてまとめ、示したものである。内容の取り扱い は、幼児の発達を踏まえた指導を行うに当たって留意すべき事項である。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、ねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園終了時の具体的な姿であることを踏まえ、指導を行う際に考慮するものとする¹⁾。

* 鹿児島純心女子短期大学生生活学科生活学専攻生活クリエイトコース (〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番1号)

幼稚園教育要領第2章には、「ねらいは、幼稚園終了までに育つことが期待される生き方の基礎となる、心情、意欲、態度など」とある。「楽しい」「面白そう」などの「心情」から「やってみよう」という「意欲」が生まれ、その結果が「態度」になるという育ちの順序を示しているのである。各領域にはこの順序を踏まえた3つのねらいが設けられている。そしてそれは、「育てなくてはならない」ではなく、「育つことが期待される」とある。育つ主体は子どもであり、保育者はあくまで援助者であることを確認させる文言である。保育の「ねらい」は到達すべき具体的な姿ではなく、「こうあってほしい」という育ちの方向性として示されているのである²⁾。また、幼児があるプロセスにとらわれない方法で、ものへ関わり、形を作り、素材自体を楽しむことの行為を「造形」と呼び、折り紙で折り鶴を折るなどの決まった方法で製作を進める行為を「工作」と呼ぶことにおいて、言葉の持つ違いがある³⁾。

従って、幼児の描画と造形表現を学ぶ学生は、自分が育ってきた環境や体験してきたことの中からアイデアを引き出し、柔軟な発想力で、より楽しくなるにはどう表現すべきか、描いたり作ったりしたものをもらった相手が喜んでくれるにはどう表現すべきか、面白い表現方法の組み合わせはないかなど、常に模索することが必要である。

領域「表現」には、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」という記述があり、領域「表現」のねらいには、(1)いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ (2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ (3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむの3つが示されている⁴⁾。

造形表現においては「完成作品だけでなく、途中で幼児が発した言葉や製作のプロセス（どのように作っていったか）」を重視する必要があるとあるように⁵⁾、保育者は、子どもが表現したい気持ちを受け止め、生活の中から様々なもので表現できる可能性を見出し、柔軟な感性を持つことを求められるであろう。そのためには、保育者自身が、「描画」と「工作」の表現技術を備える必要があると考える。

「絵による表現」の目標は、1. 色や形の造形表現をとおして表現力を高め、色々なものの美しさなどに対して豊かな感性を持っている。2. 自らが描くことの楽しさを知り、感じたことや考えたことを表現して楽しむことができる。3. ことばで表現できない子どもの心を感じ取る感性を養い、生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現をすることができる。授業の展開計画は、子どもの遊びに見られる興味や関心に着目し、その造形表現を広げ育てるための工夫を考え、色の性質と表現方法を知り、子どもの表現活動を想定し製作する。

「工作による表現」の目標は、1. 子どもは内面に欲求・興味・関心を秘めた存在であり、それらを様々な方法で表現することを理解している。2. 身近な素材を用いて道具と手や指を使い、子どもが自ら生き生きと造形表現できるように援助する方法や技術を修得している。3. 子どもの感性を受け止めることのできる、豊かな感性と表現力を身に付けている。授業の展開計画は、子どもが様々な体験をとおして、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培えるように、子どもの感性と表現力・創造性を引き出すための造形活動を想定し製作している。これらにより、自ら造形作品に発展する素材を探し、身に付けた多様な表現方法を保育の実践につなげることが肝要である。

本稿では、絵や工作の造形表現において、造形に発展する素材と表現方法の手がかりとして、描画材料の選定や造形表現のための「作る」材料の種類を考え、授業で学んだ技法を次の課題の中に取り入れ、新しい表現方法と組み合わせることで、より楽しく製作ができるように実践した内容を示すものである。

Ⅱ. 授業の概要

「絵による表現」は、はじき絵、スクラッチ（ひっかき絵）、スタンプング、コラージュ（貼り絵）、フロッタージュ（こすり出し）、ちぎり絵などの「描く」造形表現や、ポップアップカード、近未来の世界の空想画を描く立体的な表現と、グループで協働して描く壁面装飾の製作などで、子どもの描画技法と表現方法を身に付けることをねらいとしている。授業の概要を表1に示す。

表1 「絵による表現」授業の概要

回	内容	技法他
1	はじき絵	面白い形の自然物を組み合わせて人や動物のはじき絵を描く。
2	スクラッチ	はがきに鮮やかな色と黒のパスを重ね塗り、割り箸や釘で引っ掻いて絵ハガキを描く。
3	スタンプング	面白い断面の野菜やスポンジのスタンプで、画用紙のTシャツに絵を描く。
4	コラージュとフロッタージュ	コラージュ（貼り絵）とフロッタージュ（こすり出し）の技法で、記念日のはがきを作る。
5～7	ポップアップカード	開くと飛び出すハッピーカードを作る。
8・9	ちぎり絵	折り紙や色画用紙を手でちぎり、様々な思い出をちぎり絵で描く。
10～12	近未来の世界の空想画	近未来の世界を空想して、立体的な表現で絵を描く。
13・14	グループ製作	グループでテーマを決めて、2枚を貼り合わせた広幅用紙に色々な技法を用いて壁面を装飾する絵を描く。
15	グループ製作の発表	グループで制作した壁面装飾の絵の感想を発表する。

「工作による表現」は、はじき絵のお面、何に見えるかな？、折り紙カレンダー、紙粘土で作るお弁当やお菓子などの「作る」造形表現とグループで協働して作る季節の行事パネルの製作で、子どもの感性と表現力・創造性を培うための造形活動を想定することをねらいとしている。授業の概要を表2に示す。

表2 「工作による表現」授業の概要

回	内容	技法他
1・2	はじき絵のお面	動物や人の面白い表情のはじき絵のお面を作る。
3～5	何に見えるかな？	ペットボトル・牛乳パック・段ボール・ラップのしん・プラスチックの器など、身近にある生活素材を使って動くものを作る。
6～9	折り紙のカレンダー	折り紙と絵を組み合わせて、自分の誕生月のオリジナルカレンダーを作る。

10～12	紙粘土で作るお弁当	色画用紙でお弁当箱やお菓子を盛る器をつくり、紙粘土に水彩絵の具や水性マーカーで着色して、お弁当やお菓子を作る。
13・14	グループ製作	グループで協働して、広幅用紙1枚に様々な素材を用いた春夏秋冬の行事パネルを作る。
15	グループ製作の発表	グループで協働して製作した感想を発表する。

この2つの科目は、「絵による表現」で身に付けた描画技法が、「工作による表現」の造形表現に生かされるように呼応した形で展開している。

Ⅲ. 「描く」造形表現

1. 描画を通じた平面的な造形表現

幼児の生活と遊びは造形活動にとって関わりが深く、幼児がどのような生活環境や地域風土で過ごしているかは、造形作品になる時に多くの影響を与えるとあるように⁶⁾、「絵による表現」では、身の回りにあるものを素材とし、透明水彩絵の具とクレヨン・パス（オイルパステル）を主に使い、マーカーやフェルトペンなども利用して、描画の様々な技法を体験する。

「はじき絵」は、身の回りにある石と木の葉や貝殻などの自然物を組み合わせて人や動物の形を作り、その形を鉛筆でスケッチしたものに、身近な描画材料の油性のクレヨンと水性の透明水彩絵の具で「はじき絵」の技法で描く。集めた自然物そのものが、人や動物の形になる場合と、素材の色から見立てる場合など、学生が幼児期に体験してきた日常生活での物の形の捉え方で様々な表現ができる。水彩絵の具の水の量で、油性のクレヨンと水性の水彩絵の具のはじき方が変わったり、クレヨンと同系色の水彩絵の具を塗ったら形がよく見えなかったりと、描いたものの形をはっきりと見せるために工夫する方法を発見し、絵の具とクレヨンの特性も理解できる（図1）。

「スクラッチ」は、パスの柔軟性を生かした表現として、はがき大の紙にカラフルなパスで色を塗り、その上に乗せた一番暗い色の黒のパスを引っ搔くことにより、色鮮やかな模様が下から出てくることを楽しむ技法であり、爪楊枝や割り箸などの太さの違うもので引っ搔くことで、筆では描けない線が現れ、カラフルな色の線で絵を描くことができる。完成した絵はがきを額縁に入れることで、グレードアップした絵はがきを飾ることができる。「はじき絵」や「スクラッチ」などのクレヨン・パスを用いて描いた絵は、クッキングシートを上置いてアイロンをかけることで、クレヨン・パスの色移りを防ぐと同時に光沢も出せる（図2）。

「スタンピング」は、画用紙にTシャツの形を描き、切ったら面白い断面ができる野菜（オクラ・ピーマン・レンコン）とそのままの形を写すと面白い模様になる野菜（ブロッコリー・大葉）やスポンジ製のスタンプ（ハート型・星型・丸型）などに、スタンプ台で水彩絵の具を含ませ、自由にスタンピングすることで、お花の形・蝶々の形などを楽しみながらTシャツを作ることができる。絵の具の色とスタンプの形の組み合わせ方で予想外の効果が出るので、学生たちがお互いのスタンプしたものを見比べることでヒントを得て、より一層面白いデザインのTシャツを作ることができる（図3）。

「コラージュとフロッタージュ」は、絵の具の代わりに広告や雑誌、新聞紙などを切り抜いた材料を貼り合わせて作る技法のコラージュ（貼り絵）と教室や廊下などのデコボコした形の道具類（メッシュのカゴ・タイル張りの床・ドア・壁）の形を、クレヨンや鉛筆で擦って紙に写し取る技法のフロッタージュ（こすり出し）で、記念日の絵はがきを作る。形をハサミで切り抜いて、コラージュとフロッタージュを組み合わせる糊付けして絵はがきを作るが、絵の具では出せない色と形の面白さを表現できる（図4）。

「ちぎり絵」は、思い出の一場面を鉛筆で画用紙に描き、手でちぎった折り紙や色画用紙を糊で貼り、絵を仕上げていく。裏面が白い折り紙をちぎった場合と、両面が同色の色画用紙をちぎった場合では、糊貼りした時に違う効果が現れる。折り紙では、大きくちぎったものと細かくちぎったものを組み合わせると、モザイク模様のような効果があり、色画用紙では小口が同じ色になるため、絵の具を塗った時と変わらない表現ができる。桜のお花見・夏休みの海水浴・甘くて美味しかった冷たいスイカ・お盆のお飾り・元気に空を泳ぐ鯉のぼりなど、沢山の楽しかった思い出を表現できる。「ちぎり絵」は、製作途中で壁に張って遠くから見てみたり、写真を撮ったりして見え方を確認すると、色の組み合わせや、ちぎった紙の大きさなどを工夫できる面白さがある（図5）。

2. 紙を使った立体的な描画表現

「ポップアップカード」は、はじき絵やスクラッチの技法に、コラージュ（貼り絵）とフロッタージュ（こすり出し）の技法を加え、色画用紙を台紙にして、開くと平面的な紙から立体的な形が飛び出てくる『紙で作った飛び出すハッピーカード』を作る。もらった人が幸せになるカードということで、誕生日祝い・結婚祝い・クリスマス・両親の記念日・敬老の日・部活の応援・友達記念日など、学生の身近な人々に差し上げる『飛び出すカード』は、台紙の切り込み方で飛び出し方が変わる面白さと、はじき絵やスクラッチにコラージュやフロッタージュの技法を加えることで、ひと味違った表現を楽しむことができる。実際に差し上げて喜んでもらった経験が、もっと喜んでもらえるハッピーカードを作りたいという意欲に結びついている（図6）。

「近未来の世界の空想画」は、画用紙に立方体の展開図を描き、はじき絵・スクラッチ・コラージュ（貼り絵）・フロッタージュ（こすり出し）の技法を使って、空想した近未来の世界を立体的に描く。正六面体に絵を描くので、展開図にデザインを描く時に、立体として組み立てた時の絵の効果を考えて、近未来の世界を表現する必要がある。平面の絵を立体的に表現するため、① 6面全て違う場面を描き、サイコロを転がした時のように違う絵を楽しむもの ② 横4面に連続した絵を描き、時の流れを表現したもの ③ 斜めの面に絵を描き、動きを表現したものなど、様々な表現方法を生み出すことができる（図7）。

3. グループ製作の壁面装飾

5人から7人のグループを編成し、自由にテーマを決めて広幅用紙2枚を横長に繋いだ大きな紙に、壁面装飾の絵を描き、最終回にグループ別に絵を描いた時に用いた技法の説明や作品の解説と製作した感想を発表する。「絵による表現」の壁面装飾の絵には、様々な技法に加え『手形』を使ったデザインを考えるように課題を出している。通常は個人で製作しているが、グルー

ブ製作では、リーダーとサブリーダーが中心となり、グループの皆で十分な話し合いをし、デザインを決めて大きな画面に協働して絵を描いている。時間内に完成させるために得意分野の担当を決めて進めていくが、『手形』を押す時は、子どもに帰ったように嬉々として壁面装飾の絵を製作している (図8)。



(図1) 自然物のはじき絵



(図2) スクラッチの絵ハガキ



(図3) スタンプングのTシャツ



(図4) コラージュとフロッタージュの記念日の絵葉書



(図5) 季節の行事のちぎり絵



(図6) ポップアップカード



(図7) 近未来の世界の空想画



(図8) グループ製作の壁面装飾

4. 「絵による表現」の感想

初回の授業で概要説明を受け、製作した作品の感想と子どもに指導するときのポイントを書き込んだ感想用紙を最終回に提出する。学生は、毎回作品が完成する度に感想と指導のポイントを書き込み、学んだ技法や子どもに指導するときの心構えなどを記述している。製作した作品の感想の中から、記述内容の一部を表3に示す。

表3 「絵による表現」を製作した感想と子どもに指導するときのポイントの記述

① 自然物のはじき絵	
製作した感想	自然物を組み合わせただけで、様々なものや生き物に見えてくることがわかった。クレヨンには、絵の具をはじくことをわかりやすくするために、多くの色のクレヨンを使って模様を描いて工夫した。
子どもに指導するポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段私たちが目にする自然物は、何気ないものであるが、多くの自然物に触って組み合わせる時間を作る。 ・ クレヨンと絵の具を使って、自由に描かせてから、はじくことを実感させながら伝える。
② スクラッチの絵ハガキ	
製作した感想	スクラッチのハガキを作るのは初めてだった。最初に描きたい絵を描いて、その後全体を黒のパスで下に描いた絵が見えなくなるまで塗りつぶすが、難しく大変だった。黒で塗った後に、爪楊枝や割り箸の先端で少しずつ削って絵を描いていくのも、普段の絵の描き方とは違って、少しずつ絵が浮かび上がってくるようで楽しかった。
子どもに指導するポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初のハガキに好きな色を塗っていく時は、何か決まった絵を描くよりも、好きな色を好きなだけ塗っておくだけで良い。(先に決まった絵を描くと、黒く塗った時どこにその絵を描いたかわからず、思ったようにいかない。) ・ 黒色で上から塗るので、なるべく下の色は、濃くはっきりとした色が良い。 ・ 削る道具は、爪楊枝だけでなく、割り箸などの先端でも面白い。
③ スタンプングのTシャツ	
製作した感想	野菜のスタンプを使ってTシャツの形を描いた紙にスタンプしていくのは、個人的にとっても好きだった。私自身幼稚園児の時、やったことがあったので、すごく懐かしいなと思いながら活動した。野菜の切り口は、様々な形があって、スタンプしてみるとお花に見えたり、丸に見えたりして面白かった。色々な色を使ってカラフルな作品を作ることができたので良かったと思う。途中で自分の手を使ってスタンプするのも楽しいと思ったので、身の回りのものでまたやってみようと思った。

<p>子どもに指導するポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の断面にしっかりと絵の具をつけると、野菜の切り口の形が綺麗にスタンプできる。 ・できるだけ多くの野菜を用意しておく、色々な形のスタンプができる。 ・スポンジのスタンプは絵の具をつけすぎると垂れてしまうので、スポンジには少なめに絵の具をつける。 ・手が汚れるのが嫌でなければ、手を使ってスタンプしても良い。 ・服が汚れる可能性がある、汚れても良い服で活動する。
---------------------	--

<p>④ コラージュとフロッタージュの記念カード</p>	
<p>製作した感想</p>	<p>チラシや雑誌の中から使いたい部分を切り抜いていくときに、どれを使うかとても迷った。また、クレヨンで教室内の様々な柄を紙に写すときには、思っていた以上に、身近に色々な柄が隠れているのだと気付かされた。切り抜いたチラシや雑誌を組み合わせるのがすごく難しいなと思った。始める前に簡単なと思っていたが、思っていた以上に色の組み合わせが、思い通りに行きかなかった。しかし、出来上がりは両親への思いを表現できたので、良かったと思った。</p>
<p>子どもに指導するポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・材料となるチラシや雑誌と新聞紙をなるべくたくさん準備しておくが良い。 ・切り抜きを貼り付けていく前に、どこに何を貼るのかを考えてから、貼った方が良い。 ・のりを使うので、新聞紙を敷いて汚れないようにすること、手が汚れるので、おしぼりの用意が必要。 ・切り抜きでハサミを使うことがあるので、怪我に気をつける。

<p>⑤ ポップアップカード</p>	
<p>製作した感想</p>	<p>ポップアップカードの飛び出す仕掛けは、切り込み方によってバリエーションがたくさんあると気付いた。中央部に色々な色を持つ珍しい魚を付けた。細かい作業でたいへんだったが、出来上がりは、思い通りに出来上がったので、良かったと思った。飛び出す仕掛けによって、遠近感を出すことができ、中央の魚がより目立つように作れたのも良かったと思った。カラフルに作る事ができた。ポップアップカードは、プレゼントや子どもとの製作でもたくさんの場面で活躍しそうなので、また作りたいと思った。</p>
<p>子どもに指導するポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飛び出す仕掛けをハサミで切る時は、紙を半分に折ったときに、あまりにも切りすぎると、仕掛けがはみ出すので、切る長さを考える。(長さを○cmと決めてあげても良い。) ・遠近感を出しても面白い。 ・絵を描くときのために、クレヨン、色鉛筆、ペンを用意し、画用紙や色紙なども準備する。 ・ハサミを使うので、怪我に気をつける。

<p>⑥ 思い出のちぎり絵</p>	
<p>製作した感想</p>	<p>折り紙のちぎる大きさによって、出来上がりがまったく違うことが分かった。イースターエッグや女の子の顔の部分は、細かくちぎった折り紙、背景はざっくりちぎった折り紙を使った。作業はとても単純な作業で大変だった。しかし、やりながらこれを子ども達が作ったら、集中力が高まるのではないかと思った。出来上がるまでは地味な活動だが、完成すると達成感を味わえた。すごく楽しく活動することができた。</p>
<p>子どもに指導するポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・折り紙のちぎる大きさを、大中小などの様々な大きさにすると良い。 ・ちぎった折り紙が散らばってしまうので、それぞれ色分けして入れておける箱を準備しておく。 ・細かい作業では、ピンセットを活用する。 ・のりを使うので、新聞紙などを下に敷いてから作業する。 ・描きたい絵を先に鉛筆で下書きしておくとう作業がスムーズに進む。

⑦ 立体で表現する近未来の空想画	
製作した感想	立体で近未来を表現するときに工夫したところは、立方体をサイコロに見立てて作った。1～6までの●を地球やメガネ、信号機、時計、夜空の星、マンションの窓といった物に見立てて製作した。100年後の未来を自分の好きなように想像できて楽しかった。
子どもに指導するポイント	・立体で表現する場合は、子ども達の発想で様々なものに変身するので、一面ごとに場面を変えることもできるし、全面的に使用することもできる。 ・立体のどこから見ても近未来を楽しむことができるように製作することを指導する。

⑧ 自由テーマのグループ製作	
製作した感想	これまでの色と形を学んできたことをよく生かすことができたと思う。海の部分ははじき絵、小さな魚はちぎり絵、タコはコラージュ、折り紙の魚、手型を使ってインギンチャクと色々な技法を組み合わせた。また、使う素材も1つや2つでは面白くないと思い、新聞紙、綿、モール、プチプチ、クレヨン、絵の具などを使うことで、立体的な部分も作ることができた。グループでの活動は、一人で製作する時とは違い、協力して楽しく活動できたのが良かった。
子どもに指導するポイント	・作る前にグループで何を作っていくか、大まかな作成計画を立てる。(子ども達には、小さな紙を渡して、それに作りたいものの完成図を絵で描いてもらう) ・子ども達で話し合って、誰がどこの部分を作るか決めておく。 ・色々な素材を使うと、楽しく面白い作品ができるので、素材をたくさん集める。 ・製作中は、用紙が大きいため絵の具などが付き、汚れる恐れがあるので、汚れても良い服を準備する。

5. 考察

「絵による表現」の感想と、子どもに指導するときのポイントの記述を元に考察する。「絵による表現」では、個人で7つの作品を製作し、最後にグループで協働して壁面装飾の大きな絵を製作する。「絵による表現」の感想と子どもに指導するときのポイントの記述で、学生自身が製作した経験から、子どもに指導するポイントを的確に把握していることがわかった。

① 自然物のはじき絵

身の回りにある自然物を組み合わせることで、石・貝殻・枝・葉などを自由に組み合わせ、人や動物に見立てることができることを知ることができたと考える。油性のクレヨンで描いた絵に水性の絵の具を薄めに塗ることで、はじき絵が描けることに気づき、自由に描くことの楽しさや喜びを感じていると考えられる。

② スクラッチの絵ハガキ

幼い頃に体験したことの再確認や、鋭いもので柔らかいパスを引っ掻くことで、黒い色の下に鮮やかな色彩の絵が現れる面白さを味わう体験ができたと考える。完成したハガキを額縁に入れて飾れるように工夫することで、一層素敵なものになり、自分の部屋に飾ったり、友達にプレゼントしたりして、喜びを分かち合うこともできたと考えられる。

③ スタンピングのTシャツ

最初に切り口が面白い形になる野菜を探すことから始まり、次にそのスタンプを押すことでどんな形が出現できるかを楽しむワクワク感を体験できたと考える。自分のスタンプと他の学生のスタンプの押し模様を見ながら、お互いに影響され、単に画用紙にスタンプするのではなく、Tシャツという形の中で生きる押し模様を探す工夫をして、子ども達が自由に描ける環境も整える工夫も必要とされることに気付けたと考えられる。

④ コラージュとフロッタージュの記念カード

チラシや雑誌を切り抜いて形を表現する貼り絵と、でこぼこしたものの形をこすり出す技法で記念カードを作ったが、絵の具で描くときは違った形の組み合わせの面白さがあるが、色の組み合わせが思い通りにいかず、子ども達がハサミを使い、のりで貼る作業で気をつけることに気付く良い機会となったと考えられる。

⑤ ポップアップカード

飛び出す仕掛けは、切り込み方によってバリエーションがたくさんあると気づき、遠近感を出すこともでき、プレゼントや子どもとの製作でもたくさんの場面で活躍しそうなので、また作りたいという意欲が生まれたと考える。はじき絵・スクラッチ・スタンピング・コラージュ・フロッタージュなどの技法も取り入れることで、無限に表現する可能性がある紙の造形表現の実践となったと考えられる。

⑥ 思い出のちぎり絵

折り紙や色画用紙を手でちぎり、大小様々な大きさのちぎった紙を貼って形を作り上げ、思い出の一場面を表現する。出来上がるまでは地味な活動だが、子ども達がやり遂げたら、集中力が高まり完成した達成感を味わえると考えられる。

⑦ 立体で表現する近未来の空想画

立方体の展開図を描き、近未来の世界の空想画を描くことで、時間の流れや物事を立体的に捉える良い機会となったと考える。6面を平面的に表現する場合や4面に時間の経過を表現する場合など様々な表現方法を楽しめたと考えられる。

⑧ 自由テーマのグループ製作

グループを編成し、協働して広幅用紙2枚の大きな紙に絵を描く体験は、造形活動に連帯感を与えると考える。グループ全員の意見をまとめ、役割分担して時間内に製作することで、各々が身に付けたのはじき絵・スクラッチ・スタンピング・コラージュ・フロッタージュ・ちぎり絵などの技法を最大限に発揮できる良い機会となったと考えられる。連帯意識が希薄な学生にとって、皆で協力して完成させる喜びを味わうことで、造形活動を楽しむ心情や表現したいという気持ちに変化が現れ、グループで製作した壁面装飾に使用した技法やテーマに沿った説明をすることで、授業の振り返りもできたと考えられる。



(図9) グループ製作の様子



(図10) グループ製作の発表

Ⅳ. 「作る」造形表現

1. 平面的な表現

「紙」という素材には、描く、作るなどの幅広い造形活動への発展が期待される⁷⁾。「工作による表現」では、身近な素材を用いて道具と手と指を使い、「絵による表現」で学んだ描画技法を取り入れて、子どもの遊びからヒントを得て、創造性を培う造形活動を体験する。

「はじき絵のお面」は、「絵による表現」で、油性のクレヨンと水性の透明水彩絵の具を用いたはじき絵の技法で自然物を用いたはじき絵を描いた経験を生かし、動物や人の面白い表情の「はじき絵のお面」を作る。大きな画用紙の長辺で頭にかぶる輪を作り、頭の大きさに合うように、伸び縮みが自在にできるように工夫して、二重にした輪ゴムをクロスしたものを、輪の両端に両面テープで固定する。お面として頭にかぶるので、動物のお面は、縦長の顔のキリンや長細いへびなどの表現には、裏にストローをセロテープで固定して倒れないように工夫する。人のお面は、ピエロやお友達など表情を表現しやすいものを選択している。完成したお面をかぶり、キャラクターになり、写真撮影をして楽しむことができる(図11)。

「折り紙のカレンダー」は、折り紙と描画技法を組み合わせ、1月から12月までの自分の誕生月のオリジナルカレンダーを作る。カレンダーの内容は、次の条件で作る。① 画用紙の半分の面積に自分の誕生月に因んだ折り紙を貼る。② 実際に使えるカレンダーを作るので、年・月・日・曜日を記載する。③ 「絵による表現」で学んだ技法(はじき絵、スクラッチ、スタンプング、コラージュ、フロッタージュ、ちぎり絵)を加えて使う。自分の誕生月に因んだ折り紙を使うが、お正月やひな祭りなどの一つひとつの行事には、深い意味が込められていることを知り、心豊かに過ごせる行事であることに気付くことができる。行事の内容を理解することで、曜日にも行事に因んだ折り紙を折ったものを貼り、様々な表現を楽しむこともできる(図12)。

2. 立体的な表現

「何に見えるかな?」は、自分の周りにおける生活素材の容器類(空のペットボトル・プラスチック製の卵パック・食品トレイ・プリンやゼリーのカップ)とペットボトルのキャップ、新聞紙・

ダンボール・牛乳パック・ラップの芯・トイレットペーパーの芯・ティッシュペーパーの空き箱などで、「動くもの」を作る。「動くもの」とは、人・動物・観覧車・自動車などがあり、身の回りに様々な動くものが存在することに気付く。持参した容器類を眺めていると、材料が何かに見えてくる。素材の形が持っている面白さを引き出し、何に見えるかを自分で模索しながら、変身させていく楽しさを味わうことができる。接着の方法も、接着剤やセロテープは使わず、カラフルなビニールテープを使用する。ビニールテープの色が、動物の特徴を表したり、立たせる工夫として、割り箸やストローなどで補強したりして、工夫することを学べる(図13)。

「紙粘土で作るお弁当」は、色画用紙でお弁当箱やお菓子の器を作り、軽量紙粘土に水彩絵の具や水性マーカーで着色して、お弁当やお菓子を作る。お弁当箱は色画用紙でフタ箱と身箱を作るが、フタ箱を身箱より5mmずつ大きく作ると、フタを身に綺麗に重ねることができる。お弁当の中身は、主菜のご飯と副菜のおかずを、軽量紙粘土に水彩絵の具やマーカーで色を混ぜて作る。軽量紙粘土の特長は、① とても軽く柔らかい。② 手につかず子どもでも安心して使える。③ 水彩絵の具やマーカーで粘土面に色を付けて練り込むだけで、カラーの粘土を作ることができる。用意する道具類は、粘土へら・伸ばし棒・クレイガン・木工用ボンド・竹串・テグス・縫い糸などを使う。余った粘土は、ラップに包んでポリ袋に入れて密閉保存し、粘土が硬くなったら、少し水を付けて練り直して使える。水彩絵の具を混ぜると発色が鮮やかになり、水性マーカーを混ぜるとパステルカラーのものができる。テグスや縫い糸を使うと卵焼きを綺麗に切ることができる。スパゲティーなどのヌードルは、クレイガンを使って紐状に粘土を押し出すとうまく作れる。手についたカラー粘土でふりかけを作ったり、おにぎりの表面に米粒を貼り付けたりと、日頃持参しているお弁当を参考にしたり、キャラ弁を作ったりと、無限に美味しそうなお弁当が出来上がっていく。お菓子もモンブランやロールケーキにクッキーやパフェなどを作り、お菓子屋さんの店先に並ぶ美味しそうなお菓子ができる(図14)。

3. グループ製作の行事パネル

日本人の暮らしは、お正月・五節句・節分・お彼岸などの様々な年中行事で彩られ、文化や季節感を大切に、行事を通じて日本の心を養ってきた。グループ製作の行事パネルは、「絵による表現」と同様に、5人から7人のグループを編成し、広幅用紙1枚に額縁を付けた季節の行事パネルを作り、最終回にグループ別に作った時に用いた技法の説明や、作品の解説と製作した感想を発表する。グループ製作では、リーダーとサブリーダーが中心となり、グループの皆で十分な話し合いをし、デザインを決めてパネルを作っていく。額縁をつけるという課題に、色画用紙で立体的な額縁を付けるグループと、ビニールテープでカラフルな額縁をつけるグループなど、様々な方法で作っていく。すずらんテープを海や空に見立て、編み込む・捻る・裂くなどして立体的な表現を楽しんでいるグループもある。



(図11) はじき絵のお面



(図12) 折り紙のカレンダー



(図13) 何に見えるかな？



(図14) 紙粘土で作るお弁当

4. 「工作による表現」の感想

初回の授業で概要説明を受け、製作した作品の感想と子どもに指導するときのポイントを書き込んだ感想用紙を最終回に提出する。学生は、毎回作品が完成した時に感想と指導のポイントを書き込んでいる。製作した作品の感想の中から、記述内容の一部を表4に示す。

表4 「工作による表現」を製作した感想と子ども指導するときのポイントの記述

① はじき絵のお面	
製作した感想	水彩絵の具ではじく時、どの色のクレヨンだったら映えるのかを考えたり、水の量を調節したりするのが難しかった。しかし、クレヨンで描いた線が少しずつ浮かび上がっていく過程は、作業していてとても面白かった。そのことから、単に色を塗るよりも少し趣向を凝らした方が、子どもも退屈しないと思った。他の技法を使ったお絵描きにも挑戦し、子どもに表現する楽しさを伝えていきたいと思った。
子どもに指導するポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを4つ挙げる。 ・1つ目は、水をたくさん含んでしまうと紙がふやけてしまうので、水の量を考えて調節すること。 ・2つ目は、初めは一色から塗っていき、慣れてきたら色を増やして独特の色合いや効果を楽しませること。 ・3つ目は、水彩絵の具ではじくクレヨンの色や、模様を考えて製作すること。 ・4つ目は、絵の具を使うので、筆を振り回したり、服につけたりしないなどの決まり事を守らせて、自由に表現することを楽しむこと。

② 何に見えるかな？	
製作した感想	材料の形、大きさ、色などの特徴からいろいろな動物を連想しながら製作した。こだわった点は、牛乳パックで象の体全体を表現したこと。特に象の象徴とも言える鼻は何度も長さを調節したり、巻いたりして目立つように工夫した。また、ビニールテープを鼻のシワに見立てて貼り付けたことで、より立体的な象ができたと思う。
子どもに指導するポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを4つ挙げる。 ・1つ目は、あらかじめ製作したいものを決めておくと、材料を準備しやすい。 ・2つ目は、集めた材料の大きさや形と色と固さなどの特徴に注目すると、作りたいものが連想しやすい。 ・3つ目は、絵の具やクレヨンを使えない代わりに、ビニールテープで製作物に色を付け、顔などの表現にビニールテープを活用していくこと。 ・4つ目は、切りにくい材料もあるので、製作する際は、周囲に気を配り、しっかり押さえて刃物を扱うこと。

③ 折り紙のカレンダー	
製作した感想	3月の春のカレンダーらしく、暖かな雰囲気になるように心がけて製作した。例えば配色に工夫した。なるべく暗い色の折り紙は避けて、黄色やピンクなどの暖色系を多めに使った。また、画面上を引き締める役割として、背景は色鉛筆と絵の具で色つけたのもポイント。そして、花卉や葉っぱに折り目をつけて立体感を出し、存在を目立たせるところができた。
子どもに指導するポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを4つ挙げる。 ・1つ目は、事前に折り紙の本から自分の誕生日に関連した製作物を決めておくこと。 ・2つ目は、画用紙の大きさに見合ったものを製作すること。 ・3つ目は、貼ったものが剥がれないようにしっかり糊付けすること。 ・4つ目は、カレンダーに書く数字や文字も、折り紙の製作物にあったデザインすると、全体で一体感が生まれ、見ていて楽しいカレンダーになること。

④ 紙粘土で作るお弁当	
製作した感想	こだわった点は、季節の和菓子を1つずつ製作したこと。一目で何のモチーフかがわかるようにするのは難しかったが、実物の和菓子を参考にして、リアリティを追求した。実際、形を整えたり、細かい線を引いたりする作業は、時間がかかり大変だった。また、箱にもこだわり、黒の画用紙を銀色の折り紙で高級感を演出し、中に入れる和菓子を引き立たせることができた。
子どもに指導するポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを5つ挙げる。 ・1つ目は、紙粘土は、一度開封してしまったら固まるのが早いので、残った紙粘土は、ラップなどで密閉して保管すること。 ・2つ目は、爪楊枝や糸を使うと、細部まで表現できるので、食べ物リアリティを出せる。 ・3つ目は、時間が経つと紙粘土が乾いてしまうので、適度に水を加えながら作業すること。 ・4つ目は、ヘラを活用すると、紙粘土を切ったり、形を整えたりする際に便利である。 ・5つ目は、紙粘土は乾くと縮んでしまうので、少し大きめに作っておくこと。

⑤ グループ製作による春夏秋冬の行事パネル	
製作した感想	夏の行事らしく賑やかな雰囲気になるように心掛けて製作した。こだわった点は、広幅用紙を縦に使うことで、花火の華やかさと下から勢いよく打ち上がってくる場面を表現したこと。また、すずらんテープを3枚重ねて花火を作ったことで、広幅用紙から浮き上がり、賑やかな様子が伝わるように工夫した。ちぎった折り紙を光の反射に見立てて、周りに貼ったことで、より夜空に映える花火ができたと思う。

子どもに指導するポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを6つ挙げる。 ・1つ目は、ビニールテープで額を作る前に、広幅用紙を伸ばしてはみ出さないように、慎重にテープを貼っていくこと。 ・2つ目は、製作物に合うような額の色を選ぶこと。 ・3つ目は、汚れても洋服かエプロンを着用して製作すること。 ・4つ目は、広幅用紙を広げて作業できるように、スペースを確保しておくこと。 ・5つ目は、製作する前に、完成図をグループで共有しておくこと。 ・6つ目は、今まで使った技法をふり返り、製作に取り入れること。
--------------	---

5. 考察

「工作による表現」の感想と、子どもに指導するときのポイントの記述感想を元に考察する。「工作による表現」では、個人で4つの作品を製作し、最後にグループで協働して、春夏秋冬の行事パネルを製作する。工作による表現の感想と子どもに指導するときのポイントの記述で、学生自身が製作した経験から、子どもに指導するポイントを的確に把握していることがわかった。

① はじき絵のお面

「絵による表現」で自然物のはじき絵を描いた体験を元に、人や動物のお面を作る。油性のクレヨンで描いた絵に水性の絵の具を薄めに塗ることで、はじく絵を描いた体験から、頭にかぶるものということを意識し、輪ゴムの使用や子どもが退屈しないように、趣向を凝らして自由に描くことの楽しさや喜びを感じていると考える。童心に帰り作ったお面のキャラクターになりきり、写真を撮ることで一層愛着が湧き、クレヨンの色留めにクッキンシートを絵の上に置き、アイロンをかけることで、子どもの顔や手にクレヨンが付くことを防げることも理解できたと考えられる。

② 何に見えるかな？

身の回りにある容器を組み合わせて『動くもの』を作る。『動くもの』とは何か？を考え、持参した材料からインスピレーションが刺激され、アイデアを引き出し、発想を膨らませることができたと考える。接着の方法も接着剤は用いず、ビニールテープで固定したり、色付けの代わりに使ったりと、工夫次第で様々な表現ができることを実践できたと考えられる。

③ 折り紙のカレンダー

自分の誕生月に因んだ折り紙を折り、実際に使えるカレンダーを作る。画面の半分のスペースに折り紙を貼り、残りの半分にカレンダーの曜日や日付を入れる。事前に折り紙の本から自分の誕生月に関連した製作物を決めてデザインを考え、カレンダーの曜日や日付も折り紙に合ったデザインにすることで一体感が生まれ、見ていて楽しいカレンダーを作ることができたと考える。幼児が自分の生まれた季節や行事などを知る上でも貴重な造形表現となると考えられる。

④ 紙粘土で作るお弁当

粘土と触れ合う表現として、「紙粘土は、製作してみると、とても柔らかい素材感があり、触れているだけで幼児にとっては楽しい造形材料である。まるめたり、棒状にしたり、くっつけたりしながら、年齢によって造形活動の内容を変化させていきたい。⁸⁾」とあるように、可塑性のある色をつけた紙粘土を自由にまるめたり、のばしたり、くっつけたりしてお弁当などを作ることで、幼児に日々の生活を楽しむ時間を提供できると考えられる。

⑤ グループ製作による春夏秋冬の行事パネル

グループを編成し、広幅用紙1枚で額付きの春夏秋冬の行事パネルを作る。「絵による表現」で大きな紙に絵を描いた体験を元に製作する。各季節で用いる材料も違い、グループ全員の意見をまとめ、役割分担して時間内に製作することで、「絵による表現」で身に付けたはじき絵・スクラッチ・スタンピング・コラージュ・フロッタージュ・ちぎり絵などの技法も取り入れ、額縁をつけることで、飾るということを意識した画面構成ができていくと考えられる。

V. おわりに

本稿は、「絵による表現」の「描く」造形表現と「工作による表現」の「作る」造形表現の授業実践が、保育の表現活動にどのようにつながるかを考察したものであった。

「描く」造形表現で身に付けた技法を「作る」造形表現の実践において活用し、素材を楽しむ遊びの中から、素材や表現方法を変化させた造形活動を考え、様々な技法を組み合わせることで豊かな感性を育み、表現の楽しさを味わうことができるであろう。筆者は、幼児の描画と造形表現を学ぶ学生は、ものへの関わりや、絵を描いたり形を作ったりする行為の中から、幼児の無限の可能性を引き出していく方法を模索することを大切にしたいと考えている。保育者に求められる豊かな感性を育むために、自ら有意義な活動を実践し、美しい音楽を聞き、名画を鑑賞し、自然に目を向け愛でる心を持ち、子どもの遊びの中から出てくる表現に気付く必要がある。

「感性と表現」を育み、「描く」造形表現と「作る」造形表現で、学生が造形表現の技術の向上につながる素材の選定と多様な表現方法の技術を修得し、保育の現場で幼児の活動に沿った柔軟な指導が行えるようになる授業実践であるよう、今後も努めたいと思う。

注

- 1) 幼稚園教育要領（全文）平成29年3月31日 文部科学省告示第62号 健帛社、6頁
- 2) 岡健・金澤妙子『演習保育内容表現』建帛社、2009年、15頁
- 3) 渡辺一洋『幼児の造形表現』ななみ書房、2015年、10頁
- 4) 幼稚園教育要領（全文）、前掲書、10頁
- 5) 渡辺一洋、前掲書、10頁
- 6) 渡辺一洋、前掲書、9頁

- 7) 渡辺一洋, 前掲書, 53頁
- 8) 渡辺一洋, 前掲書, 81頁

